

やまなし女性の知恵委員会

子育て環境づくり班

やまなし“スマイル”プロジェクト21

～子育てを楽しむために～

yamanashi
HAPPY...



やまなし女性の知恵委員会
子育て環境づくり班

はじめに

少子高齢化、核家族化、地域のつながりの希薄化など、子育て環境、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。以前は、地域で子どもが見守られ、子育ては地域ぐるみで行われていました。しかし、今は地域での親密な関わり、つながりを持ちたがらない人も多くいます。近くに誰が住んでいて、どんな家族構成なのか知らないということも珍しくありません。こうしたことから、昔からの地域の機能が失われつつあるところも多く、また、子育て体験の世代間の伝承がされにくくなっており、子育てについて相談したり、経験を聞いたり、知恵を借りるといったことは少なくなってきています。

人は一人では生きていくことはできません。何らかの形で周りの人とつながっています。子育ても人との何かしらのつながりがなくてはできません。昔とまったく同じ形でつながりを築くことは、私たちを取り巻く環境の大きな変化によって、難しいかもしれませんが、以前の機能を生かし、時代や地域にあった新しいつながりを築いていくことは必要であり、していかなければならないことだと思います。

子育ては、『孤』ではなく、『楽しくするもの』『すばらしいもの』だと思い、子育ての魅力に気づき、一緒に不安や悩みを解消していけるようなつながりを築いていければと考えます。

1. 子育て情報の充実

山梨県でも様々な子育てに関する事業を行い、県のホームページには子育て情報を発信する「やまなし子育てネット」もあります。子育て世代にとって、インターネットや携帯電話は非常に身近なものであり、生活に欠かせないものになっています。

「やまなし子育てネット」を山梨の子育て情報の拠点として、利用者が参加できるようにするとともに、双方向性を持たせ、つながり、交流を広げていく必要があります。そのために、以下のことを提案します。

子育てに関する情報のネーミングを統一

県でも様々な子育てに関する情報を発信していますが、中には子育ての情報であることがわかりにくいものもあるので、「やまなし子育てネット」を始め、山梨県からの子育て情報を、統一したネーミングにして、県民に発信し、一目で子育て情報だと分かるようにする。

ネーミングは「**やまはぴ**～やまなし子育ては**っぴい通信**」とする。

情報発信の方法

県では、複数の課で「子育て」に関係する仕事をして、情報等はそれぞれから提供しているため、子育てに関する全体像が分かりにくい。

そこで、山梨県からの子育てに関係する情報は、「やまはぴ」と統一したネーミングとして、各課で作成した子育て情報は、「やまはぴネット」を基地局として発信する。

また、県の広報誌やTVやラジオの県政番組で、「やまはぴ」をPRするとともに、子育てに関係する課から発信する紙面や名刺等にも積極的に掲載して、「やまはぴ」を県民に浸透していく。

さまざまな情報発信の場の提供

インターネット（「やまはぴネット」）による情報発信

（１）コミュニケーション機能を持たせる

子育てについての情報交換や意見交流の場を提供し、発信するだけでなく、相互にキャッチボールできるようにする。

（例）遊び場、お出かけ情報

子育て支援施設

子育ての悩み、不安、発育、障がい など

（２）情報レポート隊（仮）による子育て記事を掲載する

記者を募集し、リアルタイムの情報を提供する。情報を受けるだけでなく、記者として参加し、それぞれの立場で記事を書く。

ママ記者、パパ記者、おばあちゃん記者、おじいちゃん記者など・・・

（３）子育て応援団（子育て人材バンク）（仮）による支援情報を提供する

個人や企業・団体に子育て応援メッセージ～子育てを応援していく気持ち～を掲載してもらおう。社会全体で子育てを応援する気持ちの醸成と、子育ての社会化への仕組みづくりの第一歩とする。

子育てを支援する人材バンクを設置して、個人や団体に登録してもらい、社会全体で子育てを応援することを発信していく。県の子育て支援コーディネーター養成講座、サポーターリーダー養成講座の修了生にも登録してもらおう。

応援メッセージ・・・気持ちの表現

登録内容・・・支援（活動）内容、地域、時間、報酬の有無など

（４）父親の育児関係情報コーナーを設ける

育児に参加したいと思っても、何をしたいのか分からない父親もいる。父親向けの情報を掲載したり、情報交換ができるようにする。

父親手帳（後述）をPDFで掲載する。

（５）子育てを行っている親に対してモラルやマナーに関する情報を提供する

「輝くMamaのために」（仮）

（例）公共の場でのマナーって??

ベビーカーでのお出かけ

公園デビュー、子育て支援イベントデビュー

(6) 県内の産婦人科、助産所情報

県内の病院 入院可能な病床数の公表等

(7) メルマガの充実

メルマガを周知し、登録者数を増やすとともに、知りたい情報は何か把握し、内容の充実を図り、情報発信の場として有効に活用する。

紙による情報発信

インターネットが多くの人に身近であるといっても、情報発信の方法は複数あるほうがより効果的だと思います。中にはインターネットを活用しない人もいますし、悩んだり、孤独を感じたりして、外に目を向ける機会がない人もいます。そこで、インターネットによる情報発信とは別に、紙による情報発信も必要です。

そのため、生活していくうえで、必ず立ち寄る場所に子育て情報を置き、目に触れるようにします。子育ての情報が必ず得られる場所があるということは、大事なことです。

(1) 子育てに関する情報紙を作成し、誰もが立ち寄る場所に情報コーナーを設置したり、健診時に直接渡すようにする。

情報コーナー・・・病院（小児科、産婦人科のあるところ）、スーパー、コンビニエンスストアなど

健診時・・・妊婦健診、乳児健診、予防接種など

2. 地域の子育て施設の充実

子育てについて話したい、思いを共有・共感したいと思い、居場所を求めて子育て施設を利用している人は大勢います。子育て支援施設についても、新たなコミュニティの場として、時代や地域の実情に合った施設運営が必要になってきています。

地域の子育て施設運営の充実

～『子ども未来創造館』をモデルケースに

富士河口湖町にある「子ども未来創造館」は、平成18年にオープンしました。図書館機能を持つ生涯学習館が併設されていて、子どもたちが自分で考え体験し、発見する喜びと感動を得ることができる施設を目指しています。

現在、0歳から18歳までが利用できます。利用者を時間帯や曜日で分けることにより、利用者に合わせた内容を企画し、それぞれが楽しめるように工夫されています。

町が実施した「子育てサポーターリーダーの養成講座」を修了したメンバーや中高生、読み聞かせ、パパたちのボランティアなど様々な人が、企画に関わっています。企画を任されることにより、やりがいを感じ、その気持ちが企画の内容に反映され、よりよい

企画として利用者に提供されます。ここで得る体験、喜び、感動は、子どもたちの心を育ていき、将来につながっていきます。親にとっても同じことが言えるでしょう。ここで得た経験や喜びを次へつなげていこうという気持ちが生まれると思います。

子育て施設を地域のニーズに合わせた施設にする

『子ども未来創造館』をモデルケースとし、地域にある市町村等の施設の充実を促進していく。

既存の施設を充実させる
空き施設を利用する

施設の内容、利用対象者、運営方針などを地域で考え、地域の人々と作り上げていく。時間帯によって利用者を分ける、企画内容を変える等の工夫をすることにより、利用者のニーズに応え、お互いに気兼ねなく利用できるようにする。新たなコミュニティの場となり、地域の活性化にもつながる。

人が生きるシステムづくり

(1) 施設を支える人を地域の人材バンクに登録する

地域全体で施設を支える環境を整えるためにも、多くの人に施設と関わりを持ってもらうようにする。

・企画

養成講座を開催し、受講後は企画スタッフとして、施設の企画に携わってもらう

・講師

講師になる人材を募集する

(例) 工作、手芸、読み聞かせ、朗読、折り紙、わら草履づくり、
リトミック、体操、ベビーマッサージ等

(2) 地域にいる県の子育て支援コーディネーター養成講座、サポーターリーダー養成講座の修了生が活躍できる場を提供する

施設の企画などを任せ、担うことで、やりがいや責任が生まれる。

(3) 支援される側から支援する側に回れるようなシステムづくりをする

施設の内容が充実していれば、そこに集う人たちの環境(気持ち)は良くなり、『笑』『楽』が生まれてくる。この雰囲気が無理のないシステムにつながっていく。「今度は私が...」「お互いさま」の気持ちが自然と出てくる。

受け身ではなく、何ができるか考え、山梨の、私たちの住む地域の子育て環境を良くしていくために、一人ひとりができることは何か、考えていけるような施設になっていくことが理想です。

私たちも地域の一員として積極的に参画していきたいと思いますが、県においても市町村等へ働きかけるなど、促進への取り組みをお願いします。

3. 父親の子育て参加

子育ての主体になるのは、母親、そして、父親です。それは、家族形態が、多様化している現代においても変わらないと思います。子供の成長とともに、親も母親として、父親として、そして、一人の人間として成長していくものです。子供が生まれた途端、『親』になれるわけではありません。

子供と向き合う時間、子どもと接する時間、子どもを思う気持ちが『親』の成長には必要なのではないのでしょうか。子育てに主体的に関わり、その楽しさ、面白さ、大変さを知ること、夫婦の信頼や理解も深まります。始めから『親』の人はいません。学ぶことも多く、自分磨きの場にもなります。

子どもの成長は待つはくれません。子育ては、限られた時にしかできません。

父親も子育てを！～父親が子育てに主体的に参加できる社会へ～

妻の話に耳を傾ける夫になろう！

忙しくて子育てに時間がないというあなた。まずは妻の話に耳を傾けてみませんか。

妻はライブ感覚であなたに子どもの“今”を伝えたい。
仕事に育児にへとへとで、あなたも私も、“お互いさま”“お疲れさま”
だから、その日のうちに話をすれば、妻は気分が晴れて笑顔になる。
妻のその安心した笑顔で、子どもの気持ちは安定する。



だから、あなたが仕事で疲れていても、少しばかり前向きに妻の話を聞くこと・・・。
それこそが、まずは子育てに参加する第一歩となるのです。

なにげない妻との会話から、子どもの日々の成長を実感でき、また妻の心の声を受け止めることで、妻はとても満たされた気持ちになるのです。

笑っている父親になろう！

NPO法人「Fathering Japan」は、「よい父親」ではなく「笑っている父親」を増やし、ひいてはそれが働き方の見直し、企業の意識改革、社会不安の解消、次世代の育成に繋がりを、10年後・20年後の日本社会に大きな変革をもたらすということを信じ、これを目的（ミッション）としてさまざまな事業を展開している特定非営利活動法人です。

「Fathering」とは「父親であることを楽しむ生き方」のことです。

その生き方、思いを山梨県にも広げていくことができればと思います。

一人ひとりが意識を持つことはもちろん大切なことです。しかし、父親が子育てに主体的に参加できる環境づくり、父親同士の情報交換、つながりを築ける場、仕組みがなくては、父親の子育ても「孤」に陥ってしまいます。

また、職場での理解も非常に重要です。父親自身が主体的に子育てに参加したいと思っても、周囲の理解、参加しやすい環境がなくてはなかなか進みません。仕事と生活(子育て)のバランスを取っていくことは、社会全体で取り組んでいくべきことですが、一般的にはあまり知られていないので、県としても広めていく必要があります。まずは、県庁で率先して示していくことも効果があると思います。

そのために、以下のことを提案します。

仕事と子育ての両立ができる環境づくり

男女ともに仕事と子育てを両立できる環境づくりを推進していく。当事者が意識・意思を持つことはもちろん重要なことだが、それ以上に社会全体でその意識を持ち、応援していくことが必要になってくる。

職場で当事者だけでなく、周囲の上司や同僚にも理解してもらえるように、また、社会全体の意識を変えられるように情報提供等を通し、働きかけをしていく。また、取り組みを実践している企業等の紹介を行い、県内の企業の取り組みを推進していく。

父親が参加できる講座の充実

父親参加したいと思えるような講座、親子で、家族で参加できる講座を実施する。

講座内容

- ・父親へのアイデア伝授講座
- ・父親の本音座談会
- ・絵本の読み聞かせ会
- ・親子料理教室
- ・親子キャンプ
- ・親子オリエンテーリング

講師

- ・子育てコーディネーター養成講座の修了生の活用
- ・既存事業の活用(出前講座等)
- ・子育て人材バンク登録者の活用
子育て人材バンク登録者の活用

実施会場

- ・男女共同参画推進センター(ぴゅあ)3館で実施する講座
- ・男女共同参画推進センターの出前講座
企業内での講座の開催、マンションや団地の集会所での講座の開催
- ・市町村の公民館、図書館

父親手帳の発行

妊娠すると、母親には母子手帳が渡される。妊娠と同時に女性は、個人の差はあると思うが、「母親」としての意識が育つようになる。父親にも子どもが産まれる前から「父親」としての意識が育つように父親手帳を渡す。

そこには、子どもに関わる情報はもちろん、父親が自分で情報や思いを書き込めるような手帳にし、子どもが成長したときに、その手帳を一緒に見ながら話ができるような内容にする。親にとっても子どもにとっても宝物になればいいと思う。

提案に寄せて

子育て環境づくりを検討するにあたり、山梨県では様々な取組や情報発信をしていることが分かりました。しかし、私たちを始め、多くの県民はその内容をあまり知らないのではないのでしょうか。

子育てにとって笑顔や楽しさはなくてはならないものだと思います。しかし、子育てに楽しさを見いだせず、孤独を感じ、悩んでいる人もいます。「子どもは社会の宝」という言葉をよく耳にします。しかし、その一方で、子育てを個人の問題、親の責任とする考えもあります。子育て環境、家族の形態、地域の機能など社会が大きく変化している今、社会全体で子育てや生き方を見直す時期にきているのかもしれない。

今年の8月に発表された厚生労働省の2008年度雇用均等基本調査によると、育児休業などの制度面での整備は進み、女性の育児休業取得率は90.6%となり、初めて9割を超えました。それに対し、男性の取得率は前年を下回り、1.23%にとどまっています。また、育児のための勤務時間短縮等の措置の制度がある事業所の割合は49.3%となっています。しかし、第一子出産を機に育児休業を取得せずに離職する女性の割合は7割前後という現実もあります。

また、6月の国会で育児・介護休業法の改正案が成立し、配偶者の就業の有無に関係なく、育児休業が取得できることになりました。しかし、制度の整備が進んでも認知度は低く、また、不況などの社会状況もあり、制度を生かしていくことは難しいという現実もあります。県や企業も長期的な視野に立って、考えていかなければならない問題です。

子どもや母親が孤独になることがなく、家族が寄り添い、見守りながら子育てができるような社会、余裕をもって子育てができるような社会になること、父親が主体的に育児に参加できるような社会になることを強く願います。

子どもの笑顔は、何物にも代えがたいものです。すべての子どもたちが笑顔で歩んでいけるような、すべての親が希望を持って子育てしていけるような社会にしていくことは、私たち大人、県、市町村、地域、そして、企業の社会的責任です。それぞれの立場でできることを果たし、笑顔の子育てを笑顔で応援していく社会になればと思います。

「子育てするなら山梨県」と言えるように、私たちもできることから始め、関わっていききたいと強く思います。

やまなし女性の知恵委員会 子育て環境づくり班 委員一同



伊藤亜紀 伊藤一美 恩田加代 佐野宏子 丹澤元美 中沢弥生 新津幸
長谷川恵美 宮川春美 武藤志乃ぶ 渡辺聖香 渡辺千恵美
(五十音順)